

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人沼風会		
事業所名	グループホーム沼風苑		
所在地	柏市箕輪588		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	非営利特定活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・開放・安心安全」を理念とし、在宅時と同じように思い思いの生活をして頂くことに力を入れています。1年を通して様々な行事があり、季節の変化を感じていただけるよう工夫しています。職員は常に一人一人の内面を思いながら寄り添って共に在ることを心がけて努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは手賀沼近くの自然環境に恵まれたところに立地しており、3ユニットがある。随所に光が入るように設計され、広々としたフロアと回廊があり開放感がある。ユニットの中央にある広いウッドデッキでは納涼祭や食事会等の行事がよく催され、施設全体のコミュニケーションの場となっている。「家と一緒に」の考えのもと、食事に力を入れており、よく作る行事食も手作りである。食事が美味しいと言うのは利用者・家族だけでなく、地域での話題になっている。職員間では「働きやすい、意見を聞いてもらえる」と言う声が多くある。このところ退職者がいない等、居心地のよいホームの職場環境が、良いサービスに繋がっているようだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(せせらぎ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「開放的な生活」「安心・安全」の3つを掲げ実践している。	「自由な生活」「開放的な生活」「安心・安全」の3つの理念のもと、基本方針、運営方針を定めている。理念は事務所に掲示し、研修の機会にその徹底を図っている。職員は毎朝窓や玄関の施錠を外すなどを行い開放的な生活の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	箕輪の集いに参加(月1回)、ボランティアの受け入れ、他施設との交流(防災訓練の見学、行事への招待)などを行い、交流を深めている。	創設時より町会に加入しており、箕輪地区の「ふれあいの集い」に入所者も誘われ、レクリエーションに参加している。納涼祭には多くの町会の方の応援があり交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行えてはいないが、地区社協より依頼あれば受ける予定でいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の方針により、4ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議録には全職員が目を通し、改善が必要な場合には話し合い、サービス向上に繋げている。	運営会議は年4回行っている。今年7月の開催には包括支援センター、市職員、介護支援相談員、地区社協、家族、法人役員、職員等が出席をした。運営に関すること、設備や催事、食事等についての意見交換があり、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課と密に連絡を取り合っている。	包括支援センターは毎回運営推進会議に出席し、介護相談員は毎月施設への訪問がある。高齢者支援課とは市のグループホーム連絡会での交流や随時に情報交換を行っており、密接な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則しないケアを実践しているが、安全の為、玄関の施錠をおこなう場合がある。	身体拘束をしないことは法人の基本方針にあり、毎朝窓や玄関の錠を外すことを徹底するなどケアの実践に取り組んでいる。当ホームには、ユニットをつなぐウッドデッキがあり、そこは自由に出入りが出来るようになっていて、とても開放感がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう、日頃より申し送りをしっかりおこない、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できる支援体制は整えられている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いずれの場合も十分な説明を行い、家族の不安や疑問点がないか尋ね、納得・理解の得られる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会の際に職員から意見・要望等尋ね、反映できるように努めている。	法人役員、ユニットチーフ、介護支援専門員の出席のもと、毎月1回セクション会議を行っている。そこで利用者・家族等の要望や意見の報告があり、サービスに反映出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、セクション会議があり自由に意見、提案することが出来る。	セクション会議には意見のある職員も自由に参加する事ができ、又、人事の事、教育の事なども話題となる。法人役員、ユニットリーダー、介護支援専門員間の意思疎通度は高く、職場の人間関係は良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職場環境を整えてくれている。キャリアパスが始まる予定である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修があり、職員の知識・技術の向上に努めている。また、外部研修への参加にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会があり、意見交換など幅広く行えている。(スタッフ交流会など)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に会話や問いかけを心がけ、要望や気がかりな事を探り、相談を受けやすい環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活や生き立ちなどを聞き、職員で共有するよう心がけ、訪問時には細かい情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時取り入れられるよう、職員各自が変化に注意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活を共有できるよう各自を見つめ、家庭的な雰囲気作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等の参加を呼びかけ、共に過ごせる時間を多く提供できるよう心掛けています。又、変化等の報告をおこない現状を知って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、一緒にの外出や面会等も行ないやすい環境作りを心かけています。	週1度のドライブは外気浴を兼ね、馴染みの手賀沼周辺を巡り、手賀の丘公園の散策や道の駅に立ち寄り等している。恒例の年賀状、暑中見舞い出しをお手伝いし、家族、知人、友人との親交が続くよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自のレベルや趣味などを知り、スムーズな関わりが出来るよう情報を享有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や新館に異動された方に散歩がてら会いに行き、近況を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間の情報共有を徹底し、日常の生活や会話から希望等を探り、カンファ等を開き、対応している。	本人の体調や能力によっても穏やかに自然に暮らせる支援を心掛けている。会話や表情から思いを汲み取り、職員間の情報の共有が利用者中心のケアに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録を徹底し、職員同士細かなことも共有できるようにしている。又、出来るだけ会話し、内面から知っていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で気付いたこと等をケース記録し情報を共有している。又、ミニカンファを行い職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さな変化や現状を細かくナース・ケアマネにも相談・報告し、カンファレンスを開催している。家族には面会時や電話で報告するようにしている。	担当する職員が中心になり、介護支援専門員、看護師、介護職員で定期的な意見交換がされている。家族には日頃の電話や訪問時に思いや意向を聞き介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をおこない、又、ケアプラン考察等の見直しのためのミニカンファを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望・要望に常に耳を傾け、その時々で話し合い常に柔軟な姿勢で取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員・ボランティアが積極的に来苑している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的に往診受けている。歯科は毎週水曜日往診あり。急変時は電話での指示うけ対応している。	協力医療機関とは、内科、歯科ともに定期的な往診がある。緊急時には24時間医師と相談できる体制が出来ている。リハビリには柔道整復師が当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、食事量、便秘など報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが自主的に見舞いに行き、家族や病院、スタッフからの情報を入手して対応している。また、定期往診時ドクターより様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・家族等と十分に話し合いをし、確認書を取り交わし終末期のあり方等、入居者に合わせたケアをスタッフ全員で共有しおこなっている。	家族とは延命措置の対応も含め、必要な時点で医師、職員等と十分な話し合いをするという「確認書」を取り交わしている。職員は全員看取りについて研修を受け、方針を共有している。医師との連携により「看取りに関する指針」が作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を定期的におこなっている。看護師、協力病院にも連絡が取れるようマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会での訓練、自主訓練をおこなっている。	今期スプリンクラーが設置され、夜間を想定した入居者も加わる自主避難訓練が行われている。建物は複数の避難経路が確保されていて、2階の改修された広いデッキは一時避難場所となる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重する事を一番に考えている。個人記録などは厳重に管理している。	プライバシーを尊重したノックや声掛けが徹底されていて、排泄や入浴介助中の羞恥心に配慮したさりげない対応がされている。丁寧な言葉使いも含め、接遇はベテラン職員によるOJTで指導されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけたり、一人ひとりの理解力に合わせて説明を行い、自分で決定できるような声掛けなどを行いながら納得して生活してもらえるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は利用者のペースに合わせるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、洋服を選んでもらったり、その人らしくなるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり何が出来るかを確認し、皿洗い、皿拭き、テーブル拭き等、無理のないように一緒に行なっている。又、はしなど出来るだけ個人の物を使用している。	一人ひとりのできる範囲で準備や配膳、片付けを職員と一緒にやっている。茶碗、お椀、お箸は本人の物を使い家庭的にしている。食事委員会は行事食にもこだわり、お正月や節句など利用者は楽しみにしており、とても好評である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談の上メニューを決めている。食事形態も一人一人に合わせて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後おこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のサインに気付くよう努力している。又、ノムダスにより排泄のリズムを把握している。	せせらぎユニットでは「ノムダス法」を取り入れ排泄リズムを把握している。その結果失禁が減り、排泄サインも読み取れ全員トイレでの排泄が出来ている。ノムダス法とはある期間の水分摂取量と排泄量のデーターを図式化し考察しているものであるが、職員は多くの労力をかけて新しいシステムにチャレンジしている。	全ユニットでのノムダス法による排泄ケアが取り入れられ、トイレへの誘導がスムーズに行われ自立に繋がることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談しながら工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に沿い、希望があれば時間を問わず入浴して頂いている。	お風呂は毎日用意されている。ゆったりした個浴で、夕食後ゆっくり入る方、朝湯の方など、本人の気持ちや習慣に沿って個別の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体の状態や習慣、及び体調を観察しながら、気持ちの良い眠りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも見られるようファイルし保存している。症状の変化に素早く気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティ活動、家事、散歩等の実施で、生活の中に楽しみや喜びを見出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴やドライブなど外出の機会を設けている。又、日帰り旅行の実施や一泊旅行の計画等おこなっている。入居者の希望も前向きに検討する。	外出を日課にしている利用者には職員が付き添い周辺の畑や梨園を散歩している。外出行事では年数回の日帰り旅行があり、次回は成田山参拝の1泊旅行を家族も参加で計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には所持していただいている。自動販売機やファミリーマートの出張販売で買い物をする機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には電話をかけ、話していただいている。携帯電話を使用されてる方もいる。手紙も希望があれば送付できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がないよう配慮し、季節のお花、行事の写真等を飾り、季節感や生活感を出している。	木肌の廊下は温かみがあり、天井までの収納ですっきりとして明るい。居間から広がり隣の棟まで続くウッドデッキはユニット間の交流の場となり外気浴、日光浴に利用されている。納涼祭をウッドデッキで催し生活の場でのお祭りは安心感が有り好評であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考慮し、居場所や席を工夫している。リビング、ダイニング、和室、ウッドデッキ等があり、思い思いの場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や小物などを持ってきてもらい、使用して頂いている。心地よい空間となるよう工夫している。	寝具はベットを含め個人所有で、使い慣れたタンスや小物が持ち込まれ居心地良い部屋になっている。仏壇を置いている方も有りそれまでの生活と変わらぬ工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を生かしながら生活をして頂き、職員が見守ることにより安全な生活を確保している。		